



みまさかのくに 美作国建国1300年



これから、さまざまイベントに出掛ける予定じゃ。仲良くしてたも〜。

Vol. 8 “かたみくん”市役所に現る。

岡美作国建国1300年記念事業実行委員会 ☎35-3434

シリーズ 部会長に聞く①

美作国建国1300年記念事業実行委員会
情報発信部会長 河本義登さん

情報発信部では、美作地域内外のイベントや催し、県外の岡山県人会の集いなどでPR活動を行っています。



今回、PR大使のご当地アイドル・SakuLoveやPR特使のバルーンアーティスト作家・野村昌子さんに加え、マスコットキャラクター・かたみくんが登場し、活動にも弾みがつきました。

わたしは、各市町村の人が、同じ目標に向かって一緒に行動することに美作地域全体としての一体感を強く感じています。

建国1300年をきっかけとして、美作地域を訪れる人にリピーターとなってもらうには“人”がキーワードだと思います。地域に住む人たちが地域のことを知り、交流することで「我々が、まちを作り、歴史を振り返り、気持ちをつなげる」という機運が高まります。みんなでふれあいを大切にしたい。“おもてなし”を行い、美作地域のファンを増やしていきたいです。

さらに、事業の記録を伝え残すことも実行委員会の大切な役目だと思っています。後世に事業のコンセプトや取り組みを伝えることで、未来の人たちに思いをつなげていきたいですね。

9月26日、美作国建国1300年記念事業実行委員会のマスコットキャラクター・かたみくんたちPR隊が津山市役所を訪れ、宮地市長にPRグッズを手渡しました。



市長は「体型がわたしに似て親しみがわく。これから美作地方をどんどんアピールしてほしい」と激励しました。

JR岡山駅でもPR活動
9月28日、PR隊はJR岡山駅でチラシ配布などのPR活動を行いました。

かたみくんは、駅の利用客と記念写真を頼まれたり、下校中の小学生に撫でられたりと、早速、人気者になっていました。



プレイベント情報
山中一揆〜真庭からの挑戦〜
とき 12月1日(土)午後1時30分〜午後4時50分、2日(日)午前8時30分〜午後4時

ところ 湯原ふれあいセンター 1(真庭市)

内容 1日IIシンポジウム、2日II史跡めぐり(申し込みが必ず)

※詳しくは、お問い合わせください



▲河童の骨接ぎが伝わると思われる家

昔、中北下に住むおじいさんが、山に柴刈りに行くと、草むらから子ども泣き声が聞こえてきました。泣いていたのは、なんと、河童の子どもでした。河童は岩の上から転んで、大怪我をしていたのです。

おじいさんは、その河童を家に連れて帰り、薬を塗り、手厚く手当てをして帰してやりました。

数年が経ち、おじいさんの家で、子どもが足の骨を折ってしまいました。おじいさんが困っていると、以前、助けた河童が現れ「助けてもらったお礼に骨接ぎをしましょう」と言っていて、子どもの足を治療してくれました。そして、骨接ぎの方法も教えてくれました。

それから、おじいさんの家では骨接ぎを始め、それは「河童の骨接ぎ」と呼ばれ、多くの人に喜ばれたという事です。

津山 あれこれ

河童の骨接ぎ(中北下)

きらめく 津山人

中国語教室講師
姚蕊さん(中之町)



日本と中国との交流の力になりたい

7月に公益財団法人日本国際教育支援協会と独立行政法人国際交流基金が実施した日本語能力試験で、最も難易度の高いN1レベルに合格した中国人の姚さんにお話を伺いました。

来日のきっかけは?
わたしが中国にいた時、旅行に来た津山の男性と知り合って、結婚を機に来日しました。最初は島根県松江市で5年間暮らして、8年前に津山にやって来ました。

日本語はどうやって学びましたか?
来日した当初、日本語は全く話せませんでした。だから、最初は英語や漢字、身振りで会話をしていました。でも、本当の気持ちをもっと

まく相手に伝えたいと思ったので、松江市で日本語教室に通いました。津山に来てからは、自分で辞書を引くなど独学で勉強していたのですが、今年の3月に市の日本語教室があることを知り、入会しました。

試験を受験するきっかけは?
日本語教室に通い始めてすぐ、先生から「日本語能力試験があるけどあなたの語学力だったらN1レベルを受けてみないか?」と言われ、わたしも受けるからにはN1レベルを受験しようと思った。

受験することを決めてからは、苦しい文法の勉強にも力を入れました。勉強することはつらかったですが、合格できてとてもうれしかったです。

津山の印象はどうですか?
津山は、鶴山公園の桜など自然が美しいですし、人も優しく温かいので、第二の故郷だと思っています。「くじゃけん」や「くしんちゃん」など、初めて津山弁を聞いた時は、共通語との違いにびっくりしましたが、今では愛着を感じています。

今、わたしが住んでいる地域は、以前より子どもが少なくなり、家の前も人通りが少なくなって、寂しくなった気がします。

わたしは、津山がもっとインターナショナルなまちになればいいと思っています。音楽やダンスなど文化的な



津山日本語教室で学ぶ姚さん(写真中央)

活動ができる教室が少なく感じるのも、もっと教室を増やして、交流の場が増えるといいですね。

今後の目標はありますか?
日本語はとても美しい言葉で大好きなので、さらに上手く日本語が話せるようになりたいです。

そして、チャンスがあれば日本と中国との交流に携わる仕事をしたいです。日本のことを中国の人に伝え、日本の皆さんにわたしの故郷の西安が歴史的なまちであることなどを伝えたいです。それぞれの国の良いところをもっと知り合ってほしいと思っています。

インタビューでも流暢な日本語で話す姚さん。「やろうと思えばできる」と中国語の講師や小学校のPTA役員など何事にも積極的に取り組んでいます。日中友好の架け橋の一人として活躍してほしいですね。